

■令和8年9月定例記者会見

日時：令和8年8月26日(水)午後2時～3時

場所：吹田市役所高層棟4階特別会議室

【市長挨拶】

よろしくお願いします。座ったままで失礼します。

ちょっとデータで情報を提供させていただこうと思ひまして、目の前にこの中核市の人口増減率というデータをお示しております。

これはあらゆる政策に関わるものです。もちろん後から触れますスポーツ、ガンバの件に関しても、人口あつてのことです。

今、人口がどうなっているかっていうのは、全国規模で急激に人口が減少しているっていうのは、もう皆さんご承知の通りです。

じゃあ、どの地域でどれくらい減っているかっていうのを個別に見るのはなかなか難しいところがあつて、一事例が、四国でこうや、東北でこうやっていうのはニュースにはなるんですけども、中核市、これ全国で62市あります。

満遍なく全国に散らばつていて、この62市でこの都市の名前を聞いたことないわっていうところは一つも無いはずですよ。

それぐらい地域の核になっている都市、自治体なんですけれども、見ていただくとわかるように非常にショッキングなデータですよ。

これは国全体を見た時に、これで大丈夫なのかって思わせられるデータですよ。

というのは、62市のうちで人口なんとか保っているっていうところがたった6市しかありません。

残りの56市は人口がどんどんどんどん減つていっています。

これは5年間のデータですよ。

特に下の方にあるところでは、5年間で5%を超える人口が減るということは、たった目の前の20年で、その都市の人口は2割減るということなんです。

その中のどの年齢層が減っているかということ考えた時に、若手・中堅が減つて高齢化がま

すまず進んでいく、そしたら住みにくくなる。

そしたら都市に特に若手・中堅、働く場所が必要な人は移動してくる。

それが今、急激に進んでいます。

その都市の一つ、代表的な一つとして吹田市があります。

人口が急激に減少している我が国において、急激に人口が増えている都市があります。

それは住みにくいところから住みやすいところに移住するからです。このトップは吹田市です。

ご覧のように、この5年間で2.3%人口が増加をしました。しかも増加し続けています。

そこはそこでかなりの悩みがあるんですけども、それよりも下の方のどんどん人口が減っているところの悩みの方がはるかに深いというのはわかります。

全国の市と呼ばれる792(自治体)ですかね、の全体の増減の中央値が-6%という非常に厳しい数字なんですけれども、この53位、54位のところに書いてあるところがそこになります。

中核市の中央値っていうのが31位のところですよ。

中核市はさすがにまだ周りから入ってくるということで、全国の市のこの減少度合いっていうのはこれどころではない。

というのを、まずは吹田市っていうのはどういう街やっていうのを見ていただく時に、このドライなデータから見ていただきたい。

吹田市と柏市、これがトップ2、これ何年かずっとトップ2なんですけれども、その両市の特徴は、医療、病院、研究所、それから図書館、公園、様々な公共施設が集まっています。

大学がうちは小さい市ですけど5つあります。

これ共通するのは全部非課税です。非課税の公共施設。公的な施設です。

これまでの昭和からのまちづくり、課税対象の大きな企業を引っ張ってきてまちづくりをするっていうのがモデルになってきましたけど、大きく転換をしています。

こういう魅力ある非課税施設という言い方もなんですが、公共的な施設が揃っているところ、そこに多くの国民が移住をしてこられているというのがここから読み取れる大きなことです。

重厚長大の都市っていうのが下半分にずらっと並んでいます。その時代が終わった。

海外で製品を作りますので、有名なところでも働き口がないということが起こっているということを、これ数字でまとめて今日は話のネタに情報提供させていただきます。

右に NATS ありますけど、NATS4市はご覧のように全国中核市でも非常に上位にある 4 市が、170 万人いてますけれども、連携をしている。

その意味もここから読み取っていただければと思います。

数字でご興味ある方と無い方いらっしゃると思うんですけども、素データなので、ここから深めていくっていうのをぜひジャーナリストの皆さんにお願いをしたいなと思っております。

冒頭にまずこういうお話をさせていただきました。その上で、吹田市は今からご説明をさせていただく、何をやるんや、そのベースは何なんやというのをご理解いただければと思いますし、情報提供させていただきました。

よろしくお願いします。